

第4回プロジェクト奨励賞審査結果及び交付額

番号	団体・個人	代表者	所属	申請テーマ	テーマの目的	期待される成果	評価	助成金
1	TMU-SFC・体験！化学実験実行委員会	吉田 俊	都市教養学科・理工学系化学コース3年	大学祭期間中に開催する「体験！化学実験2016」及び、学外で実施する「出張！化学実験教室」	科学の楽しさを多くの人に伝える。化学実験を通じて、参加者の知的好奇心を高める。その知的好奇心を探求心へとステップアップさせ、未来の科学者を目指すきっかけを作る。	・理科離れの解消：科学の楽しさに触れてもらい、化学への興味関心を持ってもらう。 ・学生自身のスキル向上：基本動作の習得と同時にプレゼンテーション能力の向上等社会で求められる人材として成長できる。	理科離れが危惧されている現在、このような地道な活動に粘り強く取り組むことは重要と思われる。地域の学校等からも高い評価を受けており、引き続き活動することが求められている。これらを通じて大学の知名度の向上もつながっている。また、学生自身の学びと成長につながるようなシステムにつながっている点、また、プロジェクトという面から見ても、継続的に活動できる体制を作り上げている点も評価できる。	150千円
2	ネットワークデザインスタジオ有志	木村汐里	システムデザイン研究科インダストリアルアート学域修士2年	過疎化が進む集落での子ども向け行事の復活	地域コミュニティの活性化による限界集落の地域当事者性の醸成	・多世代交流が生まれる。 ・子どもの地域愛着・郷土精神の深まり ・周辺の限界集落への波及期待	過疎地域を活性化したいとの目的は社会貢献性もある。それを子ども向け行事という比較的取り組みやすいテーマに絞っており、活動内容についてもかなり具体化されている。学業で学んだ知識を活用している点も評価できる。また、他の集落への波及も期待される。この成果を積極的に発信することで、大学の知名度アップにもつながることが期待できる。	100千円
3	荒川キャン東北応援隊	長田光平	健康福祉学部・理学療法学科3年	岩手県陸前高田市におけるボランティア活動	東日本大震災で被災された仮設住宅に住む方々に対して、マッサージや手芸といった活動によって仮設住宅の人々の交流の場を設け、仮設住宅内でのつながりの創出、及び被災された方々への精神的な支援を目的とする。	・活動を継続して行うことによる、仮設住宅内のコミュニティの再形成、強化。 ・被災地の展示を通じて被災地に対する関心を高める。 ・医学を学ぶ学生という立場から仮設住宅内の人たちの健康管理に寄与	大震災以来継続して活動を行っており、今では、仮設住宅居住者にとって欠かせない存在になっていることがうかがわれる。活動を継続することが求められているものと判断できる。また、自分たちの学んでいることを実際に活かす活動内容であり、その面からも、大学の知名度のアップにもつながると思われる。	150千円
4	CORE	真壁健二	システムデザイン学部航空宇宙システム工学コース3年	システムエンジニアリングの手法を用いたハイブリッドロケットの製作活動	世界の宇宙産業や自動車産業で一般的に用いられている Systems Engineering の手法を、大学生規模が製作するロケット開発に導入。そして、その結果を「能代宇宙イベント2016」の現場で発表することによって、首都大学東京の知名度の向上を図るとともに、首都大学生から他大学の学生にこれまで以上に「システムデザイン」の手法を広める。	システムズエンジニアリングの手法は技術統合工学であり、技術統合の面で苦しんでいる他大学の学生にとっても興味深いものと推測される。それを現場で発表することで、首都大の「システムデザイン学部」としての価値、知名度を高められる。	ロケットを製作するプロセスに着目したプロジェクトという発想が新鮮である。また同時に単なるアイデアにとどまらず目的達成の可能性も高いと思われる。結果は、他大学学生等にとっても参考になるのではないかと。ひいては大学の評価を高めることにつながると考える。	100千円